



特集：

がんの
おはなし



Special Thanks



診療情報管理士
芝山友里絵さん



診療情報管理士
半田美乃さん



薬剤師
山野静香さん



リハビリテーション部
橋本敏和さん



肝胆脾外科
佐野圭二教授



診療情報管理士
木村静香さん



診療放射線技師
水見洋子さん



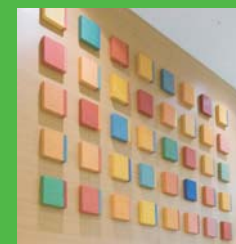
リハビリテーション部
小泉淳さん



乳がん看護認定看護師
小野智恵美さん

次号『帝京大学医学部附属病院院内報チームVol.02』は8月中旬発行予定です。

今号の表紙



エスカレーター横のアートの写真

作家:ルネ・リートマイヤー Rene Rietmeyer (オランダ)

オランダ作家の独特な色彩感から生み出された、鮮やかでカラフルな色合いの絵画レリーフが、外来ホールでお客様を出迎えています。光のさざ波のような様々な色のハーモニーが、訪れる人々の不安感を軽減し、元気を与えてくれます。エスカレーターで移動しながら、その移り変わりを楽しむことができます。

編集後記

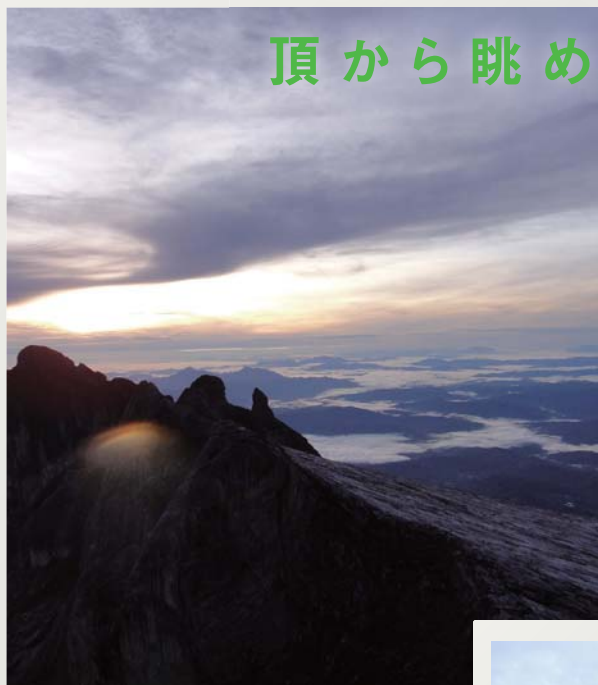
院内報『T-me』はいかがでしたか？医療に対するスタッフの思いや、日常生活の意外な一面を発見していただけたのではないのでしょうか。医療現場で働くスタッフは、当然ながらそれぞれの分野の専門家です。しかし、彼らが「チーム」となってはじめて、より良い医療の提供がなされるのだと改めて感じました。



【私 の 一 枚】

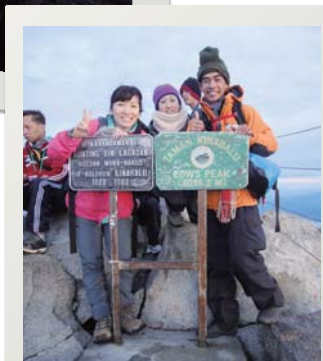
PICTURE

東南アジア最高峰、 “キナバル山”の 頂から眺める絶景。



薬剤師
山野静香さん

独立行政法人東京病院勤務を経て、2003年に帝京大学医学部附属病院入職。2009年からがん病棟に配属に。医師や看護師と協働して、がん患者の服薬指導など、薬学的管理にあたっている。



ボルネオ島北部、マレーシア領にあり、東南アジア最高峰として君臨する、キナバル山。その標高は富士山よりも高い4095mにも及ぶ。岩肌がむき出しになった奇岩がそびえ立つ山頂付近から、眼下に横たわる雲海が朝日に照らされ赤く染まってく、神々しいまでの

美しい瞬間を記録した1枚です。この写真を撮影したのは、当院の薬剤師として活躍する山野静香さん。今年1月、友人、現地ガイドとともにキナバル山登山に挑戦。山小屋で仮眠をとる1泊2日の強行軍の中、明け方近くに山頂に到達し、厚い雲の切れ間から太陽が登り始める感動の、御来光を拝むことができたそうです。

薬剤師の専門家として、処方箋の内服薬や注射薬の調剤、患者様の服用指導や副作用のモニタリングなど、責任ある業務をつとめ積み重ねていく山野さん。「もっとがん治療に対する知識と経験を深めたい」という彼女の想いは、御来光と同様、旭日昇天なのです。

CONTENTS

05 特集：

が ん の
お は な し

01 VOICE!
編集長から

02 PICTURE
私の一枚

03 SIDE ON! SIDE OFF!
病院スタッフのオンとオフを紹介

09 Special T-me
がん治療スペシャルチーム

10 People
医療人アルバム「認定看護師」

11 Lecture Room
特別講義

13 Topics&News
帝京大学病院からのお知らせ



T-me
Teikyo University Hospital

T-me「チーム」は、帝京大学病院と地域の皆さんをつなぐ院内報です。

T : teikyo = 帝京大学病院
me : medical = 地域の皆さんのための医療

また「チーム」には、チーム医療（医師だけでなく、看護師や薬剤師、栄養士などさまざまなスタッフが連携して行う医療）の意味も込められています。

がんは日本人の死亡原因の約30%に上り、年間30万人以上の方が命を失っています。本院では「がんセンター」を中心に、医師、看護師はもちろん、理学療法士、放射線技師、診療情報管理士などさまざまなメンバーがチームとなり、がん患者の皆様へより良い医療の提供を行いたいと考えております。スタッフの医療に対する思いや日常生活などを感じていただければと思います。

VOICE!
今号の編集長



がんセンター長
江口研二

SIDE OFF!

素顔のスタッフ

病院スタッフの元気のミナモトは
いったいどこにあるのでしょうか？
ちょっと聞いてみました。

かわいい雑貨を探しに
ショッピングに
出かけます。

ヨガで
心身ともに
リフレッシュ
しています。

着物を
カジュアルに
着こなして、
楽しんでいます。

がん治療の
向上に
つながって
いきたい。

医学知識を
深めるための
自学が
欠かせません。

他の病院から
目標とされる
データベース
づくりを
めざします。

SIDE ON!

医療のココロ

チーム医療の実践と
それぞれの熱い想いが
当院を動かしているのです。

医療情報課
院内がん登録チーム
(診療情報管理士)
木村静香さん

医療情報課
院内がん登録チーム
(診療情報管理士)
半田美乃さん

医療情報課
院内がん登録チーム
(診療情報管理士)
芝山友里絵さん

診療情報管理士とは？ 診療録(カルテ)を整理、分類し、そこに含まれる医療情報を分析、加工して医療の場に提供する専門職。日本病学会が実施している2年間の診療情報管理士通信教育を受講するか、診療情報管理士受験認定指定校にて必須科目を履修した後、認定試験に合格することで診療情報管理士の資格を取ることができる。

普通の業務内容を 教えてください。

帝京大学医学部附属病院においてがんの診断・治療を受けた全患者について、当院を受診されるまでの経過、がんの診断を受けるまでの経緯をはじめ、検査・治療内容、予後に関する情報までを登録する「院内がん登録」を行っています。がん診療の実態を把握することで、発生状況の分析やがん医療の向上、がん患者やそのご家族の支援を目的に、当院では2008年から進めています。

蓄積された電子カルテの中からがん登録候補となる約1万件を抽出。検査・治療結果内容などの診療記録を細かく精査し、不足があれば担当の医師へ繰り返し確認。がん登録に適合するカルテ情報を、専用データベースに入力していく。この業務を担当しているのは、専門研修を受けた3名の診療情報管理士。情報管理の専門技能だけでなく、医療に関する幅広い知識、高い倫理観や的確な判断力も必要とされる。そんな彼女たちが最も大切にしていることとは？「情報を収集し正確に登録する。そのためにもドクターをはじめとする関係スタッフとの密な連携が不可欠ですね(半田さん)」

休日の過ごし方を 教えてください。

膨大な電子カルテをつひと確認していくという精細な業務に笑顔で取り組み続ける院内がん登録チーム。そんな彼女たちのプライベートな時間の過ごし方を聞いてみました。まずは半田さん。「週に1度、ヨガ教室に通っています。頭を空にして、ゆっくり身体を動かしながら深い呼吸を繰り返す。これが一番のリフレッシュ方法ですね」。緊張をほぐすことを心がけているそうです。木村さんの趣味は、アクセサリや雑貨の収集。「かわいいピアスや小物を探しにいろいろな街に出かけますね」。賑やかな街を闊歩し、お気に入りのアイテムを見つけることが、何よりの気分転換になるとのこと。最後は芝山さん。休日は映画やスポーツを楽しむことが多いのですが、注目したいのがそのファッション。「着物をカジュアルに着て外出するんです。ボーリングに行った時はさすがに周りの目が気になりましたけど(笑)」

ヨガやショッピング、ファッションなど、思い思いの休日を過ごしている3人。プライベートタイムの充実が、ウィークデーの業務を支えているようです。

特集：

がんのおはなし

がんは、1981年以降、死亡原因第一位の病気です。
その数は毎年30万人を越え、
日本人の約3人に1人が、がんによって亡くなっています。
現代の医療において、最も重要な課題であるがんに対し、
帝京大学医学部附属病院が進めている
さまざまな取り組みについてご紹介します。

●部位別がん死亡数(2007年)

	1位	2位	3位
男性	肺	胃	大腸／肝臓
女性	大腸	肺	胃

※国立がん研究センターがん対策情報センター資料による。
※大腸がんは結腸と直腸を合わせたもの。

「人間のからだは日々細胞分裂を繰り返しているわけですが、その遺伝子のひとつが突然変異を起こすことでがん細胞が生まれます。つまり、新陳代謝によって新しい細胞が多く生まれる場所ほどがんが生まれやすく、あまり細胞分裂をしない安定した部分にはがんができません」といえるでしょう。

私たちのからだは約60兆個の細胞から形成されています。そのうち突然変異で生まれた一つのがん細胞が爆発的に増殖を繰り返すことで、さまざまな臓器に転移するのががんの特徴です。

「通常、私たちのからだは細胞分裂をするうえで、増えた分だけ自然死するようにプログラミングされていて、増殖と細胞死の一定のバランスが保たれています。しかし、がん細胞には自然死というものがなく、増殖する一方なんです。そのように大きくなったがん細胞が、正常な細胞のエネルギーをも使い果たし、死に至らしめるというものなのです」

がんは、発症者が増える一方、治るものも増えたといわれています。がんの治療法にはどのようなものがあるのでしょうか。

がんは、日本人の2人に1人がかかり、3人に1人が亡くなるといわれている病です。発症する人は年々増え続け、誰もが気を付けなければならぬ、身近な病気であるにも関わらず、その実態や治療法について、あいまいに理解されているのではないのでしょうか。そこで帝京大学医学部附属病院において、肝胆膵外科の専門医として日々がん患者の診療にあたっている佐野圭二教授に、がんに関するさまざまなお話を伺いました。

「誤解されている方もいらっしゃると思いますが、がんは悪性腫瘍の中の一部であり、悪性腫瘍Ⅱ（イコールがんではありません。つまり、悪性腫瘍の中には、がんでないものもあるのです。では、がんとは何かという、いわゆる正常な細胞が突然変異したもので、胃や大腸などの粘膜を分泌するような上皮性組織（体の組織を仕切る組織）からできたものをがんと呼んでいます。例えば、骨からできたものでは骨肉腫、血液であれば白血病やリンパ腫瘍、悪性リンパ腫であり、がんとは呼びません」

では、がんはどのような理由で発生するのでしょうか。

yoi-
ohanashi

がんのおはなし



「まず内科医が抗がん剤を投与して腫瘍を小さくしてから外科医が手術。そこからまた内科医が抗がん剤を使って治療する。別のケースでは、放射線科と腫瘍内科の先生が放射線化学療法などの術前治療を行い、腫瘍を小さくしたうえで外科医ができるだけ内臓を残しながら手術。術後は内科医が抗がん剤治療を行うこともあります。診療科の枠を越えて専門医が手を携え、一人ひとりの患者様に合った治療を行えるのも、帝京の強みではないでしょうか」

地域がん診療連携拠点病院の認定を受け、病院を挙げてがん診療に取り組む当院。そのキーワードは医療スタッフの連携による「チーム医療」です。

「がん患者様の治療には、さまざまな専門スタッフが関与しています。手術が可能な患者様であれば執刀する外科医はもちろん麻酔科医、術前に化学療法を行う腫瘍内科や放射線科の医師が治療しますし、患者様の状態を把握するための検査では、X線撮影をする放射線技師や病理検査の専門医が関わってきますね」

がん治療は、さまざまな専門家によるオーケストラのようなもの



院内がん登録チームの半田さん、芝山さん、木村さん。「登録したデータを抽出、分析することで、がん治療の向上につなげていきたいです」



薬剤師の山野さんが重視しているのは、がん患者の状態に目を配ること。「特に抗がん剤治療の前後は、定期的に患者様の状態を見にいくようにしています」

診療、治療の中心はドクターですが、それ以外にも多くの医療スタッフががん患者の治療を支えているそうです。

「もちろん看護師の方の存在は欠かせません。手術の前に、『手術室はこんな感じですよ』、といったオリエンテーションをしてくれるなど、患者様のメンタルケアでも重要な役割を担っています。そのほかにも手術前、栄養状態が悪ければ、栄養課の方に栄養指導をお願いすることもありますし、抗がん剤の副作用や精神的な落ち込み、痛みによって食事が食べられないという時には薬剤師の方に相談して適切なお薬を出してもらいうこともありますね」

回復期に行うきめ細かなケアなど、予後のサポート体制も充実。筋力の維持・回復のためのリハビリを行う

理学療法士や、痛みなどの不快な症状の緩和をサポートする緩和ケアチーム、がん患者やご家族の不安に応えるがん相談支援室のスタッフなど、がんに関する専任の医療スタッフが一人ひとりの患者をバックアップしている。

「退院後も認定看護師や認定薬剤師が常時勤務する化学療法室があるので、安心して抗がん剤治療を受けていただくことができます。患者様の大切な個人情報も管理するがん登録チームの職員も含め、各領域のエキスパートが知恵を出し合って、患者様にとってベストな治療を目標に働いています」

帝京のがん治療は、各パートの専門家が奏でる音が重なり合い、最高の音楽を生み出す、オーケストラのようなものです。

佐野圭二教授

1964年岡山県生まれ。1990年東京大学医学部卒業、医学博士。日本外科学会・消化器外科学会専門医。静岡県立総合病院、東京大学医学部附属病院、国立がんセンター勤務を経て、2010年4月より帝京大学医学部外科学講座教授に就任。肝胆膵外科の専門医として、日々診療にあたっている。

帝京のがん治療

地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、がんに対するより良質な治療をめざす帝京の取り組みについて、その特徴をご紹介します。

がんの治療には「局所」と「全身」の2つの治療法がある

がんの治療法には、局所療法と全身療法という大きく2つの方法があります。局所療法とはがんそのものの絞った治療法で、その代表的なものがメスによって病巣を切除する手術療法。そのほかにも、放射線を照射してがんを攻撃する放射線療法や、電極針を患部に差し込み、ラジオ波やマイクロ波などを使って、がんを壊死させる方法があります。

「がんが特定の部位に固まっている、転移が確認されない場合には絶大たる効果が期待できる治療法ですが、その反面メスが使えない場所や届かない場所にあるがんや離れているところに複数転移している進行がんには有効ではありません」

もうひとつの治療方法が全身療法と呼ばれるもの。病巣が複数確認できる場合や全身に目に見えない小さながん細胞が転移している場合に行われる方法で、抗がん剤やホルモン剤の薬剤を用いてがん細胞を破壊する方法です。



リハビリを担当する理学療法士の小泉さん。「無理な運動を強いるのではなく、患者様の意思を尊重したリハビリを行っています」

「血液が及ぶ範囲であれば治療が期待できますが、基本的に全身まんべんなく行き渡るので、がん以外の正常の細胞もダメージを受ける可能性があります。副作用はこのために起こるのです。局所療法、全身療法それぞれに長所、短所があるので、組み合わせる治療するのが主流になっていますね」

各診療科の専門医がひとつのチームとなって治療にあたる

それぞれの特性を活かし、複数の治療法を組み合わせることで、最適ながん治療をめざす。これも質の高い専門医と最新の医療設備と医療機器を備えた帝京ならではの特長のひとつ。



放射線技師の水見さん。「オペを控えた患者様の治療について、ドクターや看護師、薬剤師と定期的に話し合う機会があるんです」

People

医療人アルバム

認定看護師

特定分野の高い専門知識を持ち、
乳がん患者のメンタルケアにあたる
認定看護師・小野さんの想いとは？

認定看護師

看護師として5年以上（うち3年以上は認定看護分野の経験）の実務経験を経たのち、認定看護分野に応じた認定看護師教育課程（6ヶ月・600時間以上）を修了し、認定審査（筆記試験）に合格すると認定看護師として登録される。

乳がん看護認定看護師
小野智恵美さん

乳がんの患者様をトータルで支えたい。

当院に入職後、心臓外科病棟や外科外来などで看護師の業務にあたってきた小野さん。がん患者と多く接する中で、「がん患者の治療期をもっと支えたい」という想いから、乳がん看護の認定看護師をめざすことを決意したそうです。「乳がん看護は、特定の一場面ではなく、検査を受ける段階から、告知、治療、そして最後を迎えられる時まで、患者様と家族が直面するさまざまな場面に立ち会い、その不安をケアできる。ひとりの患者様とトータル的に向き合えることに魅力を感じました」。小野さんは抗がん剤治療を受ける外来患者の看護のほか、乳がんの告知を受ける患者のケアも担当。「診療室に一緒に入り、担当医の話の

内容を聞き取れたか、それをどのようにとらえているかなどを一つひとつ確認しながら、今後の治療に向かうための気持ちの整理や、治療や対処方法を一緒に考えるようにしています」。小野さんは不安や混乱を抱える患者に寄り添う気持ちを何よりも大切にしているそうです。

受け継がれていく言葉にならない心遣い。

そんな小野さんが次に見ている目標とは？「看護師として働く中で身に付けてきた、患者様の気持ちを察した配慮などを言語化していこうと思っています。経験に基づいた知識を若い看護師に伝えていくことができれば、診療や治療が患者様にとってより快適なものになりますから」。小野さんの乳がん患者を思う向上心に終わりはありません。



①患者様が海外旅行で撮った写真をまとめたアルバム。他の患者様の励みになっている ②病院で聞いた内容を家で確認するためのオリジナルリーフレット ③交流スペースでは各種資料の閲覧のほか、相談会も開催している

海外でのPR活動にボランティアとして参加

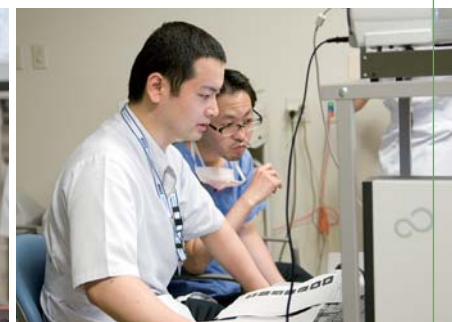
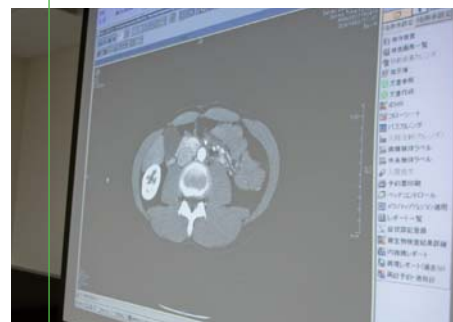
間寛平さんをゲストに迎え、3月5日に開催された「サイパンマラソン2011」。この大会では、乳がん検診を促進するPRブースが設けられ、小野さんをはじめとする認定看護師がボランティアとして参加しました。小野さんの活動は国内にとどまることはありません。



小野さんらの活動は、現地のマスコミにも大きく取り上げられました。

特集：

がんのおはなし



①病理検査の専門医が電子顕微鏡を使って細胞を解説。②CTやMRIの検査結果を真剣に見つめるドクター。③外科、内科の医師のほか、腫瘍内科、放射線科診断部、放射線科治療部、病理部などの医師も参加。

担当医やがん治療に携わる専門スタッフが一堂に会し、がん患者の治療方針を包括的に議論する討論会が、カンサーボードです。ひとつの症例に対して、各専門家がそれぞれの視点から意見を交換、検討、共有することで、最も適切な治療を提供することをめざしています。

「主治医が他の意見を参考にできることはもちろん、話し合われた結果は患者様に口頭でご説明するので、ひとりの医師の意見ではなく、多くの意見を参考にできます。患者様にも多くのメリットがありますね」（佐野教授）

がん治療 スペシャルチーム

主治医を中心に、各分野の専門家の意見を集約。
多角的な視点から診療方針を決定する
「カンサーボード」が、がん患者を支えます。

Licence

資格取得のエッセンス

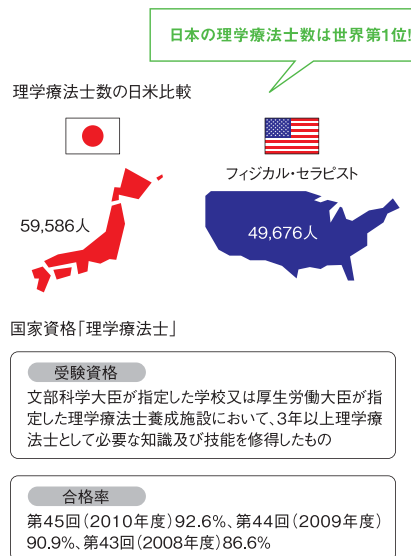


リハビリテーション部
小泉 淳さん

「リハビリの専門職、
「理学療法士」

2025年には4人に1人が65歳以上になると、今後も高齢化が進む日本。超高齢者社会を迎え、その必要性が高まっているのが「理学療法士」の仕事です。理学療法士は医療リハビリテーションの専門職。ケガや病気が原因で普段の生活動作が不自由になったり、痛みを感じる人に対して、座る、起き上がる、立つ、歩くといった基本動作能力の回復や維持、悪化の予防を目的として、運動療法や

今後ますます需要が増える医療資格とは？



物理療法を中心とした治療を行います。

スタッフのみなさんが医療のあれこれについて紹介します。

Trivia

医療現場の雑学知識



診療放射線技師
水見 洋子さん

放射線技師が明かす
お子さま撮影時の
テクニックとは？

レントゲンやCT、MRIなどを使って、体内の病理解剖所見や診断のための検査を行う撮影検査室。ここで多くの患者さんの検査を担当してきた水見さんは、入職12年目を迎えた診療放射線技師。「初めて検査される患者様は緊張されているので、撮影前に丁寧に検査内容を説明するように。決して機械的な説明ではなく、患者様一人ひとりと向き合うことを大切にしています」。そんな

患者様にリラックス
していただくための
工夫があります。



お子さまの撮影は、泣いている方がいい!?

Item

医療を支える器具



リハビリテーション部
橋本 敏和さん

血液内の酸素量が
リアルタイムでわかる
優れもの

手術中や術後の患者さんの指先に挟む、コードの付いた大きなクリップのようなもの。これは「パルスオキシメーター」といい、動脈血の酸素飽和度を測定する医療測定機器です。そのしくみは、クリップ部分の内側に発光部があり、赤い光を爪に当て、透過光や反射光を測定することで酸素流量を計測するというもの。酸素は赤血球の中にあるヘモグロビンによって全身に運ばれますが、ヘモグロ

指先に挟む、大きなクリップの正体とは？



さまざまな
医療現場で活躍！

パルスオキシメーター

酸素と融合したヘモグロビンは赤いため、発光部から照射された赤い光は吸収されずに指を通り抜ける。この光の量を測定することで酸素飽和度が分かる事になる。

Lecture Room 特 × 別 × 講 × 義

Word

医療用語の基礎知識



診療情報管理士
半田 美乃さん

がんの進行度を
判定する
国際規格の分類方法

がん治療の向上と患者さんの心身のケアに、病院を挙げて取り組む当院。受診されたがんの患者さんの情報を精査、集約していく「院内がん登録チーム」にとって、なくてはならないのが「UICC TNM分類」という冊子。「UICC」とは「国際対がん連合」の略称で、がんの予防や患者支援を推進する組織のこと。「TNM分類」とは、UICCが定めたがんの進行度を判定する分類方法です。部位ごとに各

国際的な分類、「UICC TNM分類」とは？



UICC TNM分類
Classification of Malignant Tumours

- ① 原発巣の大きさと拡がり、深さを表すもので、T0～4までの4段階に区分する。
- ② 所属リンパ節転移の有無と拡がり、深さを表すもので、N0～3までの段階に区分する。
- ③ 遠隔転移の有無を表し、遠隔転移がなければM0、あればM1となる。

Topics & News

帝京大学病院からの
お知らせ

News

東北地方太平洋沖地震 における当院の 取り組みについて

平成23年3月11日に発生いたしました、東北地方太平洋沖地震で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

当院におきましても人命重視、被災者重視の方針で、被災された方の受け入れを行ってまいります。

震災発生後、当院では医師や看護師からなる医療救護班を被災地に派遣し、救護活動を行ってまいりました。

また、被災地より重症患者さんの受入れも行いました。

01



被災地での救護活動



被災地より防災ヘリコプターにて患者さんを搬送

詳細な活動は当院のホームページよりご覧いただけます。
http://www.teikyo-u.ac.jp/hospital/eastjapan_earthquake/index.html

【検討：選定】

案1：帝京宿場町

宿場町には多くの人が集まるというイメージがあり、温かくて騒々しくて懐かしい響きがある。宿場町のように、患者さんが気軽に大勢集まる場所になるように。

案2：陽だまり

来る人があたたかい気持ちになるように。また、2階は陽あたりが良く、陽だまりそのものである。

News

ロビー コンサートを 開催します。

病院を利用される方々が音楽を楽しんでいただくことを目的に、ロビーコンサートを開催いたします。平成23年度は豊島区にある名門、東京音楽大学から選良された学生さんによる演奏を年3回予定しています。病气と闘う患者さんやご家族の方々に、音楽を通じて安らぎのひと時を提供したいとの想いから、ボランティアで演奏をしてくれます。

04



詳細は当院のホームページ、または院内掲示で発表いたします。素敵な音楽を是非お楽しみください。

News

ボランティア 募集の お知らせ

当院ではボランティア活動をしていただける方、または、団体を随時募集しております。活動内容・活動時間についてはご相談に応じます。資格や経験は問わず興味のある方はぜひご連絡ください。

【活動内容】

- ◎ 外来手続き案内
- ◎ 患者図書整理(移動図書)

02



【お問い合わせ先】
帝京大学医学部附属病院 総務課
電話:03-3964-4019(直通)

◎ 情報コーナー、患者交流スペースの管理
◎ 各種催し物
※その他の活動内容はご相談ください。

News

がん患者・ 家族交流スペース 名称決定

2階の外来化学療法室横にがん患者・家族交流スペースがあります。この交流スペースの名称を平成23年2月に病院職員から募集し、多くの応募がありました。今回、紙面にて名称を発表いたします。

03

【がん患者・家族交流スペース名称】



Topics

病气についての 知識を深める 「帝京メディカル」

05



帝京大学 医学部附属病院では、「がん」や「脳梗塞」といった病気の原因や予防法、さらには最新の治療法について、医学部教員を中心とするドクターが詳しく解説する動画サイト「帝京メディカル」を開設してい



帝京メディカル 検索

ます。ドクターのインタビューだけでなく、アニメーションや映像資料を用いて、わかりやすく紹介していますので、是非一度ご覧になってみてください。各コンテンツは、帝京大学医学部附属病院サイトのトップページからご覧いただけます。
<http://www.teikyo-u.ac.jp/hospital/>